

第48回 近畿地区高等学校PTA連合会大会 滋賀大会

令和5年7月1日（土）第48回近畿地区高等学校PTA連合会大会滋賀大会に参加いたしました。今大会テーマが「みんなで考えよう！『PTAのこれから』」であるため、記念講演として高松平蔵様より「ドイツからの眼差し、未来志向でPTAを考える」を拝聴させていただきました。ドイツでは、ステークホルダーという考え方があり、PTAというものがなく学校との関わりはクラスの代表者が2名選出され、クラス単位で関わっているそうです。「両親のタベ」という集まりなどで学校に関わりたい親が率先し、先生をお招きしお話し合いをするそうです。これは、驚きですね？親が先生を呼び寄せて話を聞き、自分から学校に関わっていく、日本ではありえない考え方です。これが日本には足りない根本だと感じました。自分の子どもがどんな環境で、どんな勉強をしているのかと考えると、聞きたくなります。小さな時は幼稚園や保育所にべったり関わってきたが、大きくなるにつれ子どものことが面倒になりがちだとハッとさせられる思いでした。学校との関わりが最後になる高校生活のPTAを、もう少し子どものことを考えながら関わっていきたいと考えさせられる素晴らしい講演でした。大会では、講演だけではなくウェルカムパフォーマンスとして守山高等学校吹奏楽の皆さんが、心躍る演奏をしていただいたり、お昼休憩には伊吹高校書道部の皆さんが躍動感溢れるパフォーマンスをしていただき、このような充実した大会に参加できたこと光栄に思いました。

